大会名称: 第71回四国高等学校バスケットボール選手権大会

 開催場所: 鳴門アミノバリューホール Cコート

 試合区分: No. 6 男子 決勝
 主審: 相原 伸康

 期 日: 2018(H30)年6月17日(日)
 副審: 柏原 琢磨

 開始時間: 13:30
 副審: 西 和馬

新田(愛媛)			6	9	6 — 15 20 — 16 24 — 14 19 — 18 — —				6 3	松山工業					
NO. S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手	·名 P	TS 3	P 2	P.	FT	F
4	岡田 有夢	4	0	2	0	0	4	*		人	10	0	5	0	3
5	塩田 龍之介	4	0	2	0	1	5	*	髙橋 聖 :	太	4	0	2	0	5
6 *	平岡 遥斗	7	1	2	0	0	6	*	高橋 聖 : 藤岡 修 : 池内 亮 :	太 也	12	0	6	0	3
7 *	大原 海	14	0	6	2	2	7	*	池 内 亮 🤃	太	9	1	2	2	2
8 *	今井 新ノ将	11	1	4	0	0	8	*	菊 池 雄 二	太	14	3	1	3	0
9	栗林 大貴	_	-	-	-	-	9		曽我部 鈴	汰	14	4	0	2	1
10	片岡 慎之介	-	_	_	_	_	10		石 川 駿之	.介	-	-	-	_	_
11 *	村上 翔	18	1	6	3	2	11		川村宗	之	-	-	-	_	_
12	上野 大翔	2	0	1	0	0	12		横田海	翶	_	-	-	_	_
13	中川 拓人	9	0	4	1	1	13		横田海		0	0	0	0	0
14	吉田 雄登	-	_	_	_	_	14		武内理貴		-	-	-1	_	_
15	真鍋 歩夢	-	_	_	_	_	15		永井 敦士		-	_	-1	_	_
16 *	正岡 侑真	0	0	0	0	0	16			T	-	-	-	_	_
17	池田 晃紳	-	_	_	_	_	17		佐 竹 莞	多	-	-	_	_	_
18	岡田 勇輝	-	-	-	_	_	18		小 森 竜太	:郎	-	-	-	_	_
													T	\neg	
													T	\neg	
													寸		
													寸		
コーチ	玉井 剛 / TEAM							-チ	池松 健彦 /	TEAM			寸		
	合計	69	3	27	6	6		•	合		63	8	16	7	14

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファール

第1Q、新田は3-2のゾーン、松山工業はマンツーマンディフェンスで試合が始まる。序盤、新田が松山工業のバスケットに迫るも、激しいディフェンスでペイントエリアへの侵入を許さない。一方、松山工業は⑥、⑦のインサイドを軸に④、⑦が要所で3Pを沈め、6-15 松山工業リードで第1Qを終える。第2Q、立ち上がりから新田はパス回しからディフスの突破をねらい、⑪の連続得点で流れをつかむと、ディフェンスのプレッシャーを強め、巻き返しを図る。対する松山工業は、⑦の個人技やこの試合3本目となる⑨の3Pで対抗し26-31で前半を終える。後半の立ち上がり、新田はプレッシャーの手を緩めない。松山工業のターンオーバーを誘い、⑦、⑧の個人技で得点を重ねると、第3Q中盤この試合初のリードを奪う。松山工業は⑥がゴール下で体を張り得点を重ね、両チーム一進一体の攻防を繰り広げるが、第3Q終了間際、新田⑦がステップバックからの3Pを決めると50-45 新田リードで終える。第4Qに入っても、両チームのせめぎあいが続くが、新田⑪のカウント1ショットを含む連続得点で新田が流れをつかむ。松山工業は⑧、⑨の3Pで追いかけるが、残り1分、新田が松山工業のディフェンスをかいくぐり、⑬がレイアップを決めると、69-63で新田が勝利を飾った。

担当者:船田 浩希(徳島県高体連)

四国高等学校体育連盟・徳島県教育委員会・四国バスケットボール協会

